

ママたち踏み出した一歩

米軍と自衛隊の基地の街・神奈川県横須賀市で、「戦争に行かない、誰一人行かせない」を合言葉に、戦争法に反対する「横須賀ALS（オールズ）」が昨年9月に結成され、賛同者は千人を超えています。「戦争法廃止を求める2000万署名」を集める自主的な会が各地に作られ、12人を数えています。各地域の活動に刺激を受けて、3人のママがこのほど、初めて戸別訪問して署名を訴えました。その一人・大森亜希子さん（34）に聞きました。（原田浩一朗）



大森亜希子さんと2人の息子

神奈川・横須賀

本気の目標

きっかけは、ママ世代で署名の目標を話し合ったことでした。一人のママが1000人分を提案。「20人でとくんださいまさま意見ができました。1人50人分ず

つとざっくり計算すると、「無理、無理」「現実的に考えよう」とか、「それくらいやらなきゃ本気は出せない。1人1000人分にしない？」など、

1人で50人分、100人分となると「知り合いだけではちが明かない」とみんな気づき、「それなら、戸別訪問やるしかないか」となりまし

行。3人がそれぞれ6カ月から1歳の乳児を抱えて1時間行動しました。最初は3人一緒に訪問し、コツをつかんでからは1人ずつに分かれ、「こんなやりとりをしたよ」と途中で交流して進めました。90軒訪問して16軒で話ができて、署名を寄せてくれたのは4人でした。

の署名という数の多さを実感、②自分の話し方を工夫するようになる、③30軒やると1人くらい優しい人に出会える、④対話ができる一歩です。

四つの収穫

大森さんは「相手が知り合いだと勇気が要り、気も使うけど、戸別訪問はある意味吹っ切れる」といい、「四つの収穫があった」と語ります。①

「署名を1人にでもお願いする、思い切って戸別訪問をやってみる、スタンディングは無理でも、聴衆として行ってみる。自分のできることを一歩踏み出すことに意味があると感じています」

思い切って一軒一軒



とりあえず集まれる3人のママで3日後に決

「この思いはどんなママ、パパも同じだと思うし、戦争法ノーの思いを形にすることは誰にでもできる」と大森さん。

「署名を1人にでもお願いする、思い切って戸別訪問をやってみる、スタンディングは無理でも、聴衆として行ってみる。自分のできることを一歩踏み出すことに意味があると感じています」